



## 青谷地区まちづくり協議会

### だより

第19号 平成31年3月発行

事務局：青谷地区公民館内

電話 0857-37-7420

FAX 0857-85-0155



# 青谷地区まちづくり協議会総会開催

3月5日(火)平成31年度青谷地区まちづくり協議会総会を開催し、平成30年度事業報告並びに決算、平成31年度事業計画並びに予算が審議され、全議案が全会一致で承認されました。

会長以下役員は2年任期で、昨年と引き続き次の方にお世話になります。(敬称略)

会長	山根 恵	本 町
副会長	若木行寿	灘 町
//	前田孝行	赤尾谷
//	鱈 雅子	西 町
会 計	高野知加	前 町
監 事	花原 隆	本 町
//	福市美由紀	灘 町
事務局長	浜江康雄	本 町

# 第1回部会開催

総会後に第1回部会を開催し、それぞれの部会の部会長、副部会長を選任しました。次の方にお世話になります。(敬称略)

地区安全部会長	富田 収	灘 町
地区安全副部会長	豊田康美	東 町
地区再生部会長	田内伸一	西 町
地区再生副部会長	安田正美	本 町
健康・体育部会長	山根 恵	本 町
健康・体育副部会長	磯邊浩二	浜 町
福祉支援部会長	松岡礼子	東 町
福祉支援副部会長	上田 忍	駅 前

## 新部会員さん紹介

青谷地区まちづくり協議会の部会は、各町区より推薦された部会員さんと、会長より推薦された部会員さんで構成しています。各町区より推薦された部会員さんを紹介します。(敬称略)

### 〈地区安全部会〉

駅 前	松田 晃	赤尾谷	相見雄一	東 町	豊田康美
中 町	水氏清志	本 町	浜崎淳一	浜 町	川崎 操
灘 町	富田 収	前 町	谷口美雄	夏 泊	遠藤 勤
西 町	花田圭輔	井 手	田中裕美	長和瀬	田村典子
西 町	東田尚登	緑 町	中村 礼		

### 〈地区再生部会〉

駅 前	磯邊彰一	赤尾谷	山田誠一郎	東 町	秋田典昭
中 町	宮脇貞夫	本 町	安田正美	浜 町	花原伸幸
灘 町	岸本行正	前 町	関 克則	夏 泊	山下邦雄
西 町	田内伸一	井 手	田中秀美	長和瀬	島辺一司
緑 町	平田光男				

### 〈健康体育部会〉

駅 前	久野剛史	赤尾谷	山田哲也	東 町	濱崎修司
中 町	麻木洋人	本 町	山根 恵	浜 町	磯邊浩二
灘 町	八東 香	前 町	美濃銀次郎	夏 泊	遠藤 靖
西 町	山田裕一	井 手	高浜昭雄	長和瀬	岡 辰己
緑 町	山根 誠				

### 〈福祉支援部会〉

駅 前	上田 忍	赤尾谷	相見園子	東 町	松岡礼子
中 町	石井良二	本 町	大谷聖子	浜 町	長村 徹
灘 町	福市美由紀	前 町	池田清子	夏 泊	河内光一
西 町	宇多川貴史	井 手	田中 聡	長和瀬	源徳あさみ
緑 町	佃 政巳				



総会の様子

# 各部会の事業計画

## 地区安全部会

基本目標 安心して暮らせるまちづくり

実施計画	実施内容
(1) 災害に強いまちづくり	防災講演会 福井田橋北の信号機について
(2) 子供たちの見守り活動、環境作り	早朝街頭指導(4月、9月)

## 地区再生部会

基本目標 地域の歴史と文化を活かしたまちづくり

実施計画	実施内容
(1) 地域に残る文化財の保存と活用	題目塔周辺草刈
(2) 地域文化の伝承	地域探訪事業の実施
(3) 伝統行事の保存と活用	「因幡の菖蒲綱引き」行事の支援

## 健康・体育部会

基本目標 みんなが健康で生き生きと暮らせるまちづくり

実施計画	実施内容
(1) スポーツ大会を通しての健康増進と地区住民同士や世代間の交流を図る	青谷地区大運動会の開催 (9月29日)
(2) 健康な身体作りにつながる活動の支援	ニュースポーツ、ウォーキング講習会

## 福祉支援部会

基本目標 みんなで助け合い支え合う福祉のまちづくり

実施計画	実施内容
(1) 高齢者の安心・安全な居場所づくり	地区敬老会の支援(5月12日) いきいきふれあいサロン出前講座の実施
(2) 一般地区住民への啓蒙活動の推進	介護講習会 健康づくりの催し
(3) 親子が安心して楽しめる活動の支援	ものづくり交流会(夏休み) クリスマス会(12月)

青谷地区地域づくり懇談会の地元出席者の方々には、たいへん貴重なご意見をありがとうございました。

前文を掲載するのが本意ではありますが、紙面の関係上、鳥取市の出席者の発言を中心に掲載しております。

くわしくは、鳥取市公式ウェブサイト「まちづくり」をご覧ください。

## 青谷地区地域づくり懇談会 開催概要

1 日 時 平成30年11月27日（火）19：00～20：10

2 場 所 青谷地区公民館

3 出席者 地元出席者18名  
市出席者3名（深澤市長、安本地域振興局長、山本青谷町総合支所長）

4 テーマ 全地区公園化構想の実現について

5 概要  
（地元）

○山陰海岸ジオパークには青谷も含まれているが、その宣伝は白兔海岸までが多く、青谷の宣伝・整備がない

○駐車場の整備とともに、駐車場の場所を発信できるシステムづくり

○北前船や上寺地遺跡のことを踏まえると、観光におけるこれからの青谷町のキーワードは「交流・公易」

○鳴り砂の保全（重機による清掃の必要性、海岸侵食の対策、住民の活動）

○鳥取森田株式会社の跡地が心配である。上寺地遺跡を整備しても青谷駅からの景観が悪い。

○住民の理解と参加が一つの大きな課題である。キーワードを花にして上寺地遺跡や鳴り砂の周辺に花を植栽  
（市長）

青谷地区には、上寺地遺跡、このたび日本遺産に追加認定された北前船の寄港地、鳴り砂の浜などの素晴らしい

資源がたくさんあると思っている。それらをいかにして繋ぎ、生かし、発信していくか、今はまさにその緒に就

いた時期だと思う。また、鳥取西道路は来年の夏までに供用開始になると聞いているが、もう少し早く開通する

という話も聞いており、こういったことも好機になると思う。山陰海岸ジオパークは前回の更新審査から4年が

経過し、今、2回目の審査を受けている。年明けには発表があると思うが、感触は良かったと思っている。白兔

海岸のあたりまでしか宣伝されてないのではないかという話もあったが、決してそうではなく、前回の更新審査

で追加認定されたエリアであるため、まさにこれからだと思っている。砂丘一斉清掃のエリアを青谷まで広げて

取組んではどうかというご提案をいただいた。ジオパークは、地質学的に優れていることや価値があるというだ

けではなくて、それをいかに地域で生かしていか、保全をしているかということが評価のポイントになる。例え

ば、鳥取砂丘では除草活動の評価が非常に高かった。今後は青谷までのエリアをどのように生かし、保全に取組

むかが4年後の更新審査の大きなポイントになると思っている。全市的にこのジオエリア全体で美化活動に取組

んでいくことが実現出来たら良いと思っている。北前船寄港地については、追加認定いただいた直後であるので、

どう生かすかはこれからの取組みだと思う。人や物流だけでなく、いろいろな文化も伝わり、素晴らしい交流が

あったということを我々が改めて認識し、皆さんと一緒に大いに発信していきたい。上寺地遺跡には数も

内容も優れた出土品がある。今、県との整備の負担割合が決まったところであり、来年度以降に本格的に整備保

全が始まるため、この上寺地遺跡も大いに発信していきたいと考えている。鳥取市では平成20年を協働のまち

づくり元年と位置付け、市内61地区にまちづくり協議会を設置していただき、いろいろな取組みを進めていた

だいて10年が経過したところである。10年を一区切りとし、今までの取組みを振り返って検証しながら、今後

どのように協働のまちづくりを進めていくか、改めて皆さんと一緒に考えていきたいと思っている。

（青谷町総合支所長）

駅前にあった案内看板は基礎に不安があったため、一旦取り外して、駅前の整備が終わってから立て直そうとし

ている。看板のデザインはまだ決まっていない。北前船についてはPRの看板が立っているので、ぜひ出かけて

見ていただきたい。

（地元）

○全世帯アンケート、勝部川・日置川美化運動を実施した。民意の力を高め、行政との連携。

○小規模の美化活動であれば参加しやすい。上寺地遺跡の整備に人々が楽しめる場づくり。

○空家や空地が活用できるアイデアがほしい。

○上寺地遺跡の整備について住民の力を結集する。北前船寄港地にちなんで和紙灯ろうの設置

○青谷町5地区全体の連携

（市長あいさつ）

本日は多岐にわたるテーマについてご意見、ご提言をいただいたと思う。1つひとつ取組んでいきたいと考えて

いる。長尾鼻辺りの遊歩道が崩れたままであるという話があったが、所有関係や過去の経緯も調べたところ、鳥

取市でできる部分もあるようなので検討してみたいと思う。鳥取森田株式会社の跡地が景観上の課題ではないか

という話もいただいた。これについても調べたところ、所有者が既に破産している状態で、なかなか難しいと思

っている。引き続き、鳥取市として何か対応できるような方策がないか、研究させていただきたいと思っている。

青谷町にはすばらしい資源がたくさんあり、これからはそれらをいかに活用し、発信していくかが重要になると

思う。山陰海岸ジオパークについては、2回目の更新審査が済んだら次の取組みについて早速考えていかないと

いけない。日本遺産に追加認定された北前船の寄港地については、賀露と合わせて追加認定をいただいた。具体

的な利活用については、寄港地同士の連携を取りながらやっていきたいと思っている。

人口減少は青谷町だけでなく、全国的に起こっている状況だということを改めて認識しておかなければならない。

明治維新の頃は3,330万人だった人口が、140年かけて1億2,808万人となるような、異常な増加となってい

たことが、急激に減少に転じており、また、高齢化も進んでいくといった状況である。しかし、決して悲観的に

なる必要はなく、将来に希望を持ち、夢を持って、鳥取のすばらしさをお互いに共有しながら考えていけば、自

然と道は開けていくと思っている。新しい時代を迎え、価値観も多様化してきている。地域でのつながりを大事

にしながら、ここに住んでよかったと思えるようなところを目指していくことが、我々行政の究極の目標ではな

いかと思っている。また、皆さんのいろいろなご意見をいただきながら、まちづくりをしっかりと進めていきたい。

（観光戦略課補足）

井手ヶ浜海岸は、平成26年度頃から高潮による海岸浸食が進んでいます。その影響により、海岸に隣接する駐

車場東側の階段が平成26年度に崩壊し、原状復旧を施しましたが、平成28年度に再び崩壊しました。以降、バ

リケードを設置し通行止めとしていましたが、そのバリケードも浸食の影響で平成30年10月に崩落したため、

現在応急処置を施すとともに、平成31年度の早期復旧に向けて準備を進めています。このため、今後の海岸へ

の降り口については、安全面を考慮し、浸食の影響が少ない駐車場西側の階段をご利用いただくこととしていま

す。

（青谷町総合支所長）

上寺地遺跡は来年度から史跡公園としての整備に着手し、整備が完了してグランドオープンするのは10年程度

先だが、整備が完了した部分から順次オープンしていく。今が盛り上げるチャンスであり、地域で盛り上げてい

こうと考えている。

※（地元）のご意見は、全文ではなく、ご発言の趣旨にそって要約しています。ご承諾ください